⒓月⒖、⒗日は永代経並びに無縁供養法要を勤めさせて頂きました。お天気に恵まれたくさんのお参りを頂きました。ありがとうございました。私もお話をさせて頂きました。つたない話しに聞いて下さる方はお疲れになったかも知れません。お詫び申し上げます。私自身は、法要中、それから法要が終わってからも新しい気づきがありました。王舎城の悲劇、熊沢英昭元農林事務次官一家の悲劇、そして我が家の出来事が私の中で交錯してありましたので、そのことを御縁にご信心を深めさせて頂きました。今は、息子二男が熊沢家の英一郎さんのように死ななくて済んだのは、ひとえに阿弥陀さまの御加護だったとお念仏申させて頂いております。息子二男が私に指摘してくれました「圧があった」という「圧」というのは、私の「我」であり、曠劫以来の私の闇のことです。二男の言葉は私の闇を照らす光の言葉だったと感じさせられました。王舎城の悲劇のと同じように私もどん底に落とされて、曠劫以来の闇を照らされました。曠劫以来、迷って来た私のいのちに、曠劫以来呼びかけ願い続けて下さっていた法蔵菩薩。親鸞様が王舎城の悲劇の首謀者を仏さまのお仕事をお手伝いされた諸仏として尊者と尊んでおられる教えにお育て頂いていて良かったと思いました。「南無阿弥陀仏」の不可思議なみ力、妙術に驚かされます。病となってまで母親の私を救うおきをしてくれた二男は仏さまです。有縁の皆さまにも寄り添ってたすけて頂きました。なむあみだぶつ。合掌。　法喜